

# 地球惑星科学関連学会 連絡会ニュース

No. 25

(2002年8月)

- [1] 2002年合同大会を終えて
- [2] 2003年合同大会のお知らせ
- [3] IUGG2003年総会の成功に向けて参加支援を
- [4] 第13回ゴールドシュミット国際会議(Goldschmidt 2003)  
日本開催のお知らせ(その2)

2002年合同大会は盛況のうちに終わりました。2003年度には合同大会のほか、IUGG総会やゴールドシュミット国際会議の日本開催が予定されています。今号ではこれらのお知らせも掲載します。

## [1] 2002年合同大会を終えて

### 1. 総括

2002年合同大会実行委員長 木村 学  
皆様の御協力により、2002年地球惑星科学合同大会も成功裡に終わりました。大会実行委員会を代表して、参加者及び関連学会の皆様へ深く感謝申し上げます。

さて、本年度の大会は「地球惑星科学合同大会運営機構」によって組織・運営された2回目の大会であり、1990年以来、13回目の大会でした。運営機構方式によって合同大会発展の素地が築かれ、後に具体的に示されるように共催・協賛学会、後援団体、参加者数、論文投稿数、団体展示数等すべてに渡って昨年度を大きく上回ることができました。この大会の発展を反映して、これまでの会場ではすでに手狭になっていることを多くの参加者は感じていることと思います。これらの発展は単に数だけの問題ではありません。地球惑星科学の多様な分野で科学の最先端を担う多くのセッションが活発であったことや多くの若い研究者、院生学生の参加があったことも地球惑星科学の更なる発展を予見させるものでした。また、恒例となった青少年向けのセミナーには多くの高校生、一般市民が参加し、近年叫ばれている「理科はなれ」を一掃するような熱い息吹を感じさせるものであります。それらの参加者の多くがWeb Siteで企画を知り応募して来たことに見られるように「新世代」の中に着実なメッセージを送る大会でもありました。

運営機構方式による継続的運営の蓄積は大会参加者による御意見を着実に大会の改善に結び付け、大会発展の土台を作るものであることが明確となった大会でありました。しかし、この運営機構はあくまでもボランティア団体であり、参加者の皆様の引き続き御協力なくし

て一歩も前へ進むことはできません。全ての皆様に改めて感謝申し上げますと共に、2003年度においても引き続き積極的参加をお願い申し上げます。

## [大会概要]

会期：2002年5月27日(月)-31日(金)

(5月26日(日)青少年セミナー)

会場：国立オリンピック記念青少年総合センター

● 共催・協賛学会数19学会

● 後援団体 20団体

● 参加者数2792名

事前参加登録者数2278名

(一般1328名、学生646名、一日券304名)

当日参加登録者数385名(一般/学生 222名、一日券163名)

見学者数110名、シニア(70歳以上)19名

● 論文投稿数2015件

● セッション数86件(ユニオン:3、レギュラー:51、スペシャル:32)

● 会場数34

● アルバイト延べ 230名

● 団体展示 18団体(20ブース)

● 書籍・出版団体展示 6団体

共立出版、古今書院、日本地質学会、東京大学出版会、朝倉書店、島津インターナショナル

● 会合 70会合

● 取材プレス数 21社

## 2. 企画局報告

2002年担当責任者 大村 善治

今年の企画局の主な活動としては昨年同様、「青少年向けセミナー」「団体展示」の企画・広報活動に加え、関連団体へ合同大会「後援」を依頼、及びユニオンセッションの企画・開催のサポートを行った。

### ● 後援

更に裾野を広げ、より充実・確固たる大会への発展を目指し、関連が深いと思われる団体へ大会の「後援」という形のバックアップを依頼した。「後援」内容は次の3点である。①経済的負担は求めない。②後援者としてポスター、プログラム、ホームページに団体名の記載。③(可能な限りで)団体展示への出展依頼。官公庁・特殊法人・財団法人などの研究機関40ほどへDMでお願いをしたところ、20団体が快くお受けいただき、1月の参加、投稿受付時にWEB上で公開した。結果として、多くの参加者を得て2002年大会を大いに盛り上げることができた。

### [後援団体一覧]

日本学術会議

国土交通省 海上保安庁 水路部  
 国土交通省 気象庁 気象研究所  
 国土交通省 気象庁 地磁気観測所  
 文部科学省 宇宙科学研究所  
 文部科学省 国立極地研究所  
 文部科学省 国立天文台  
 文部科学省 統計数理研究所  
 独立行政法人 国立科学博物館  
 独立行政法人 国立環境研究所 大気圏環境研究領域  
 独立行政法人 建築研究所  
 独立行政法人 産業技術総合研究所  
 独立行政法人 通信総合研究所  
 独立行政法人 農業工学研究所  
 独立行政法人 物質・材料研究機構  
 独立行政法人 防災科学技術研究所  
 宇宙開発事業団  
 金属鉱業事業団  
 海洋科学技術センター  
 核燃料サイクル開発機構 東濃地科学センター

●青少年向けセミナー

「再び月へ」 — 宇宙開発と宇宙科学 —

5月26日(日)13:30-17:00、C417 (以下講演順)

- ・「日本発→宇宙行き —ロケット開発から得たもの—」  
福添森康(宇宙開発事業団)
- ・「SELENE計画 一月への挑戦—」滝澤悦貞(宇宙開発事業団)
- ・「月のサイエンス —わが国の月探査の目指すもの」  
水谷 仁(宇宙科学研究所)

合同大会恒例の公開企画である。次世代を担う中高校生・一般の方々を対象に第一線の研究者に、最新の情報・理論を分かりやすく解説していただいた。

参加者は約200名。年齢層は10・20代で半数をしめた。休日、高校の先生が生徒を引率して参加という風景も見られ、本来の趣旨である「青少年向け」セミナーが実現できたようだった。

今回開催にあたり改善した点は、事前に参加者申込受付(事前申込数211名)をして、予め人数の把握を可能にしたことである。これは、参加者の集計、対応に多少時間を費やすことになったが、全体的にみて効率の良い広報活動に役立った。

当日参加者へ今年もアンケートを配布した。回答数147名。講演内容については、大変好評であった半面、事前か当日に内容についての印刷プログラム、資料配布などの要望があった。講師選定とともに、検討課題としたい。

[主なスケジュール]

11月 講師選定開始

- 01月 講師・テーマ決定、広報活動開始(HP掲載)、ポスター製作
- 02-05月 広報活動、学校関連へポスター・案内書送付、マスコミ  
広報依頼等
- 04月-当日 参加者受付・集計

●団体展示

大会開催中、全期間を通じて利用できる、この研究分野にまつわる包括的情報発信の場を目指して、設けている展示ブースで、18団体20ブースの申込があった。募集は10月より開始し、全出展者が決定したのは3月初めであった。応募の出足は悪かったが、最終的にはキャンセル待ちが発生した。出展料が高いという評価があるためコマサイズを小さくして単価を低くおさえる案も出ている。どちらにしても、出展者にとって、今後出展料に見合うだけの効果がみられるよう努力したい。

[主なスケジュール]

- 10月 会場決定、募集要項作成、募集対象校込み開始
- 11月 募集・勧誘開始 案内DM発送
- 01月 末日 応募一次締切 調整、追加募集
- 02-03月 最終締切 出展者決定、出展要綱配布
- 03-05月 会場準備手配(総務局)へ

[出展者一覧]

民間企業 (株)地球科学総合研究所(再)

国際電子工業(株)(再)

(株)近計システム(再)

(有)オプティマ(再)

白山工業(株)(再)

IHI AeroSpace

地熱技術開発(株)

研究団体 核燃料サイクル開発機構東濃地科学センター(再)

独立行政法人産業技術総合研究所

地質調査総合センター(再)

海洋科学技術センター/JAMSTEC(再)

財団法人高度情報科学技術研究機構

独立行政法人国立科学博物館

宇宙開発事業団地球観測利用研究センター 2ブース

宇宙開発事業団 セレーネ計画

通信総合研究所宇宙天気/アラスカプロジェクト 2ブース

大学 東北大学地学専攻(再)

東北大学惑星プラズマ・大気研究センター

研究グループ アーキアン・パーク計画

●広報活動

- ① ポスター作成・配布：大会、青少年セミナー各200部ずつ作成した。関連専攻のある大学(95)、研究機関(20)、各新聞社・放送局科学部(20)等へは両ポスターを、会場隣接地区公立中学校、東

京・埼玉・神奈川・千葉の高校(160)、へ青少年セミナーポスターを郵送し、大会及び青少年セミナーの参加を呼びかけた。今回は、製作を知人のデザイナーに依頼した。広告効果の差異は不明だが、青少年セミナーのポスターは当日、持ち帰り希望者があつたので、会場掲示分を渡した。

- ② 新聞広告：東京、産経、赤旗各新聞で、「青少年セミナー」の広告が掲載された。掲載を依頼した前の週末がワールドカップの選手発表日と重なったためか、取り扱いが少なかつた。
- ③ 当日の取材記者への対応：事前(ポスター配布時)に、各社へ申込受付方法を連絡し、当日、基本的に前大会通り「取材方法指示書」を受付にて配布。個別対応窓口は企画局長が行った。前年同程度 21 社だったが、特にトラブルの報告もなかつたので、対応方法として妥当だったと思われる。来年の大会も同様な手順で行いたい。

④ 今後の課題：

- ・青少年セミナーの講師選定は、毎年ではあるが難航し、内容の決定、ポスター作成等のスケジュールも遅れがちである。
- ・団体展示・書籍出版展示については、昨年の反省から、WEB公開、プログラム掲載に配慮したつもりであったが、やはり、宣伝不足であったことは否定できない。更に、今年は同会場にポスター発表を設けなかつたため、見学者が少なかつたという出展者の不満が聞かれた。センターからの制限があるためやむをえないが、当日案内(看板含む)も工夫が必要と思われる。出展者、見学者双方にとってより有益に活用できるよう、会場設定、当日の会場案内方法、事前の広告方法等を総務局・プログラム局と共通の課題として再検討したい。

### 3. プログラム局報告

2002年プログラム委員長 岩森 光

2002年大会はセッション数86(1コマ1時間半のセッション総コマ数220)、総投稿数2015(口頭1167、ポスター848)の過去最大規模の大会となりました。セッションコンビナ、プログラム委員をはじめ、大会に参加された皆様のご協力の賜と厚くお礼を申し上げます。

2002年大会は基本的に昨年の大会の方式を継続すると同時に、企画・参加される皆様の多様なご要望を大会に反映させやすいようにと、いくつかの変更を行いました。一つは、セッションの3つのカテゴリーである「レギュラーセッション」、「スペシャルセッション」および「ユニオンセッション」の性格を明確化し、かつ「ユニオンセッション」提案についても「スペシャルセッション」と同様に公募を行ったことです。3つのカテゴリーの内容は、以下の通りです。

- (1) 「レギュラーセッション」:各分野特有の研究発表の場として5年間程度はセッション名・内容を固定する定番セッション、および複数回の大会にわたり継続性を持たせた方がセッション企画者・発

表者・聴衆にとってメリットのあるセッションを、希望調査および昨年度までの実績に基づいて選定いたしました。

- (2) 「スペシャルセッション」:その時々に応じてタイムリーな問題を、学会枠にとらわれずに議論する場として、一般から公募しました。(1)と(2)は、いずれも平均15分/発表程度の口頭発表とポスターから構成されることを想定致しました(全て参加登録費・投稿料が必要)。
- (3) 「ユニオンセッション」:2001年大会では、全学会に共通する話題として、運営機構提案の「21世紀の地球惑星科学」が唯一のUセッションとして行われました。2001年大会では、同セッション以外にも、多くの学会に共通の要素をテーマとした魅力あるセッションが開かれていました。2002年大会では、運営機構提案のUセッションに加え、このようなセッションもUセッションとして公募致しました。1日1セッション程度、全て招待講演(他分野から講演者を招待することを想定して、参加・投稿料は無料)、長い発表時間(公演時間に上限を設けない)を設定いたしました。

もう一つの大きな変更は、ポスターセッション時間帯の変更です。昼から翌日の昼までを貼り出し時間とし、その間の夕方にコアタイムを設けました。最終日(2002年大会は6日目の金曜日)夕方のコアタイムを避けるのが目的でした。このため、ポスターは月曜の昼から金曜の昼までの4サイクルと、各曜日に1ポスターサイクルを設ける場合に比べて減少しましたが、毎日のポスター数を多くとることで、総数848を確保しました(ポスター会場が大きく取れたため可能でした)。

また、各セッションのコマ数割り振りおよび日程配置は、セッション提案時に仮のプログラム日程が組まれた2001年度とは異なり、投稿締め切り後の3月上旬に、投稿数をもとに行われました。

以上の変更点およびプログラムの編成には、さまざまなご意見が寄せられました。特に、ポスター時間については、最終日のポスターがなくなって良かったというご意見がある一方、従来の時間枠の方が(すなわち、各曜日に1ポスターサイクルを設ける方が)分かりやすくかつやりやすい(ポスター概要の発表の時間が設定しやすい)、というご意見もあります。セッションカテゴリーのさらなる多様化を求める声も聞かれました。これらの点を含め、各学会選出の委員を擁するプログラム委員会において、より良いプログラム・2003年大会の実現を目指して検討を重ねる予定です。

一方、電子投稿・プログラム編成システムに関連し、いろいろな点で行き届かなかつた点があつたこと、特に、一部の投稿原稿の処理・確認メールに関して関係者にご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。これらの技術的な面に関しましては、プログラム局、情報局が中心となり、さらに改善を目指します。皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

#### 4. 情報局報告

2002年担当責任者 宮本 英昭

合同大会運営機構は独自ドメイン(epsu.jp)を取得しました。これに伴って合同大会のトップページを移動し、今後はこれまでのように毎年ブックマークを更新する必要は無くなりました。また運営機構事務局を通じてより迅速に情報をご提供することが可能となりました。現在も事務局の御尽力によって、より充実したページへと変貌しつつありますので、是非ご利用下さい(<http://www.epsu.jp>)。

2002年度のwebシステムは、これまで5年間に渡って開発されたシステムをほぼ踏襲した形で運営されました。今年度もwebシステムの使い方などの問い合わせはほとんど無く、無事運用を終了することができました。皆様の深いご理解とご協力に感謝致します。一方で、サーバ上の障害や煩雑な操作性など、いろいろと行き届かなかった点もありました。関係者の皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫び致します。

昨年度まで使用したwebシステムは、これまでの度重なる改良と昨今のコンピュータ及びネットワーク事情の変化によって、構造的に無駄がありました。そこで2002年度の準備期間に、内部の構造及びプログラム言語を変更致しました。このため今後も安定して運用が行える設計になっていると考えております。webシステム上での大きな変更点は、講演の申し込みを行っている段階で、その原稿のCD-ROMイメージをプレビューできるようになった点です。この機能は試験的な要素を含み、十分な技術的検討が行えなかったために、一部の投稿者の方々にはご迷惑をお掛けしてしまいました。しかし全体的には、著者順やタイトルの入力間違いの軽減につながり、投稿内容の最終的な校正を行なう上でも有益だったと、概ね好評であったように思います。この機能はサーバに多大な負荷をかけるため、実際の運用に際してどこまで機能を追加すべきか迷う部分もありましたが、今回の経験で問題点をある程度把握することができました。この点も含め、webシステムは来年度以降もさらなる改善に取り組む必要があると考えています。

合同大会のプログラムの編成方法が変更になったことを受け、セッション募集やセッション編成のためのwebシステムも変更致しました。この際プログラム委員の方々のご意見を伺いながら作業を進めましたが、残念ながらオンラインでのプログラム編成システムには、幾つかの不具合が発生してしまいました。プログラム委員の方々やコンピュータの方々には、不具合に個別に対処して頂くなど、大変ご迷惑をおかけしました。またこうしたオンラインシステムとは別に、オフラインでプログラム局が効率良くセッションの編集が行えるように、セッション編集支援ソフトの開発を情報局で独自に行ないました。

2002年度の大きなトラブルは、1月から3月に集中して発生しました。特に1月にサーバの障害(業務委託した会社のRAIDシステムのクラッシュ)が発生した際は、バックアップも有効に機能せず、投稿して頂いた原稿を一部紛失してしまいました。幸い時期的に件数が少なかったために、該当する全ての方に個別にご連絡を取ることで対処

することができましたが、一部の方には投稿を2度お願いするなど多大なご迷惑をおかけしてしまいました。

また、多重投稿や著者順違い、投稿漏れなどの電子投稿上のトラブルを防ぐために、投稿内容を確認するメールの配信を行ないましたが、この一斉メール配信プログラムの不具合により、一部の方に誤った情報をお伝えしてしまい、混乱を招いてしまいました。さらに宿泊申込みの締切り間際に、確認メールの発信が行なわれないという障害も発生してしまいました。これはサーバシステムの容量の監視を怠ったために、ログが更新されなかった事が原因でした。またこの時期は委託業者側もトラブルが続いて混乱し、個人情報の新規登録やパスワード検索におけるメール送信システムが停止したままであったことに気がつかなかったという問題も発生致しました。障害に該当してしまわれた方々には多大なご迷惑をおかけしました。

こうしたトラブルは管理上の単純な手違いから生じており、今後同様の障害が生じないように業務を委託した会社に強く申し入れました。しかしながら、昨年も類似の障害が発生し強く申し入れを行っていたことと、本来委託業者が行なうべき膨大なバグの検出や管理ミスによるトラブルへの対応を、事務局が大変なご努力で対処していることは、今後検討すべき問題かと思えます。

昨年度に引き続き、かつて情報局で担っていた雑務のほとんどは事務局で処理して頂きました。今年度の情報局の業務は、事務局の方々、歴代の情報化に関った方々、プログラム局の方々の御尽力と御協力無くしては潤滑に運営できなかつたことは間違いありません。心より感謝致します。

#### 5. 財務局報告

2002年担当責任者 中村 正人

[収入] 本年度は2001年に比べ若干参加費を低く設定させていただいた為、より多くの方に参加していただくことが出来ました。参加費による収入は前年より少なくなりましたが、団体展示の収入増加でこれを補っています。繰越金額の増加(合同大会連絡会よりの移算291万円、昨年よりの繰越876万円)により、収入は2001年に比べて約700万円増加しています。

[支出] 事務局の人員増による事務能力の向上を図りました。この経費が2001年に比べて大きな伸びを示しています。これに対し、印刷郵送費の削減、事務局備品代の抑制をはかりました。これにより支出は2001年に比べて約120万円の伸びに抑えられました。

上記2項目の差し引きにより、今年は2001年よりも財務状況は改善され、昨年に引き続き収支としても黒字を計上することが出来ました。

[2003年大会] 来年度大会へは約1400万円の繰越金をもって臨むこととなります。この内791万2038円は合同大会連絡会の準備金です。昨年度、本年度の純粋の黒字積算は約600万円です。

なお、来年度からは(先方の組織改革のため)学術情報センターへの資料提出に対する見返りとしての収入がなくなります。従いまして、収入は約 200 万円減ることが予想されますが、この収入減に対応して支出の削減(WEB システムの管理、CD-ROM 印刷枚数の抑制など)を図っていきます。2001 年、2002 年の経緯から見て、大幅な赤字転落は無いものと予想されます。

<収入>	2001 実績	2002 実績
繰越		¥8,761,816
合同大会連絡会より移算	¥5,000,000	¥2,912,038
学術情報センター資料提出 (2000/2001 年度分)	¥1,403,084	¥1,885,773
投稿料	¥4,503,500	¥4,894,000
参加料 (事前)	¥14,859,000	¥14,821,000
(当日)	¥5,688,000	¥3,642,000
オリンピックセンター宿泊代 (含事務手数料)	¥4,438,750	¥3,960,200
CD-ROM 販売	¥312,000	¥240,000
団体展示	¥2,538,780	¥4,305,000
出版展示	¥370,000	¥268,141
諸学会会場費 (含会合食事代)	¥297,000	¥330,200
保育室利用料	¥58,750	¥80,500
諸収入 (過入金、口座立上金)	¥99,501	¥180,660
利息	¥1,865	¥1,851
学会長懇談会議事録作成費		¥100,000
<収入計>	¥39,570,230	¥46,383,179

<支出>	2001 実績	2002 実績
大会当日費用	¥12,309,968	¥12,212,741
オリンピックセンター会場使 用料	¥3,169,000	¥3,274,700
ポスター・団体展示会場設営費	¥1,002,750	¥1,252,755
団体展示会場電気設備工事費	¥336,000	¥321,300
当日機材費用	¥727,650	¥640,500
宿泊施設使用料	¥3,598,600	¥3,605,700
朝食食券代	¥351,330	¥0
アルバイト代・事務局日当	¥2,600,000	¥2,766,000
各学会会合食事代	¥90,000	¥81,000
講師謝金	¥60,000	¥56,760
保育室援助	¥134,638	¥214,026
展示ブース解約返金	¥240,000	¥0
JCOM 関連	¥6,723,310	¥6,770,075
受付(人件費、用具)	¥350,000	¥360,000
登録処理経費	¥1,791,000	¥1,799,300

運営管理費	¥1,840,000	¥2,000,000
ホームページ製作費用 (プログラム開発、WEB 開発、 システム運用管理)	¥3,200,000	¥3,800,000
国立情報学研究所データ処理 費用	¥100,000	¥0
展示事務		¥125,000
消費税	¥550,333	¥485,775
値引き	¥-1,108,023	¥-1,800,000
印刷費・郵送費	¥5,393,690	¥4,247,625
プログラム印刷費	¥1,625,000	¥1,453,500
CD-ROM 製作費	¥2,775,000	¥1,550,000
封筒印刷費 [請求書、プログラム発送用等]	¥192,000	¥192,000
郵便振込用紙	¥50,400	¥60,450
ネームカード	¥172,250	¥172,250
運営マニュアル	¥2,000	¥3,000
ポスター印刷費	¥126,000	¥297,000
請求書・プログラム・ CD-ROM 郵送費	¥451,040	¥519,425
運営機構経費	¥6,381,446	¥8,770,177
事務局員給与	¥2,738,650	¥5,520,375
事務局員交通費	¥296,510	¥423,370
事務局員国民保険その他	¥216,500	¥506,200
他局交通費	¥18,860	¥48,960
通信費 (振込手数料、電話代、 郵便代)	¥123,813	¥345,195
事務消耗品費	¥395,263	¥302,877
備品代	¥2,374,735	¥1,404,148
その他雑費	¥217,115	¥89,923
連絡会経費		¥94,107
学会長懇談会費 (追加)		¥35,022
支出小計	¥30,808,414	¥32,000,618
繰越金額	¥8,761,816	¥14,382,561
<支出計>	¥39,570,230	¥46,383,179
収支	¥3,761,816	¥5,620,745

## 6. 総務局報告

2002 年担当責任者 岩上 直幹

今年度から使用可能となったカルチャー棟リハーサル室に、ポスター会場の 2/3 を置いた以外、会場設定が昨年度とほぼ同じだったこともあり、大きなトラブルはなかった。主な中小トラブルは以下のとおり。

- (1) センター備え付け PC システムのトラブル頻発
- (2) リハーサル室ポスター会場狭隘、かつ端列外側照明不足
- (3) 展示会場客足不足

(4) 新型PC/OHP プロジェクターでの OHP 不鮮明

(5) 病人発生

PC プロジェクターの使用増加、およびセンター側設備の老朽化のため、最も頻繁に対応を迫られたのが昨年度と同じく(1)だった。センターには毎年設備の改善を要求してはいるが、反応は鈍い。(5)についてはセンター側から危機管理体制の不備を強く指摘されたため、来年度からは(例えば、学会を単位とした)緊急連絡網の整備を検討中。(2)および(3)については、ポスター会場と展示会場の配置換えおよびカルチャー棟展示コーナーの使用による解決を考えている。(4)は借用した新型プロジェクターの特性の問題で、来年度は旧型に戻すのが無難か。

会期中の総務局(=本部)は多年計画で作業の標準化・分散化を図り、(軽くて簡単な)長期安定形態をめざす。このためには「合同大会を未長く支えていこう」という気概ある人たちのボランティアが必要で、参加者にひろく協力をお願いしたい。

## [2] 2003 年合同大会のお知らせ

### 1. 概要

●会期:2003 年 5 月 19 日(月)-22 日(木)

●会場:国立オリンピック記念青少年総合センター

●費用:投稿料、参加費、宿泊費

基本的に 2002 年大会に準ずる。見学学部生、70 歳以上無料。

●各種登録開始・締切日(予定)

講演投稿 開始:2003 年 1 月 10 日(金)

締切:2003 年 2 月 14 日(金)

事前参加登録 開始:2003 年 1 月 10 日(金)

締切:2003 年 3 月 14 日(金)

青少年総合センターへの宿泊予約

開始:2003 年 1 月 10 日(金)

締切:2003 年 3 月 14 日(金)

### 2. 「セッション提案」のお知らせ

2003 年大会プログラム委員長 原辰彦

2003 年大会プログラム委員長の原辰彦(建築研)です。どうぞよろしくお願ひ致します。過去2回の大会でセッション区分やプログラム編成スケジュールはほぼ固まってきましたので、2003 年大会は基本的にこれを踏襲し、さらに新しい変化に対応していきたいと考えております。より充実した合同大会実現のために皆様の活発なご議論、ご提案をよろしくお願ひ致します。

#### [1] プログラム委員会の構成と役割

プログラム委員会についてご説明致します。

(1)プログラム委員会は、各共催学会選出の委員と運営機構プログラム局員から構成される。

(2)プログラム委員会は、提案されたセッションの採択、プログラム日程案の作成を行う(具体的なスケジュールは後述)。

(3)プログラム委員会は、(2)の作業を行うが、最終的な全体調整はプログラム局幹事会(後述)が中立的な立場から責任を持って行う。

運営機構プログラム局員と学会選出プログラム委員は兼任可能ですが、プログラム局幹事会は中立的な立場を保つため、兼任不可です。プログラム委員、プログラム局員のリストはそれぞれ(<http://epsu.jp/> より)でご覧になれます。

プログラム局幹事会は 2003 年プログラム委員長に前年度、次年度のプログラム委員長と、分野のバランスを考えて数名の幹事を加えて、構成します。今年の構成メンバーは、岩森光(東大・理、2002 年大会担当)、原辰彦(建築研、2003 年大会担当)、吉田尚弘(東工大・総合理工、2004 年担当)、小野高幸(東北大理)です。プログラム編成に関する検討事項はプログラム局幹事会で案を立て、プログラム委員会でご検討致します。

#### [2] 2003 年大会のセッション区分(案)

2003 年大会は前回大会を踏襲し、R(レギュラー)、S(スペシャル)、U(ユニオン)の 3 区分を設けて、プログラム編成を行うことを考えております。

#### Rセッション

5 年間程度セッション名を固定するレギュラーセッションです。2001 年大会で各学会から提案していただいたセッションの他に、レギュラー化を希望され、過去の実績からレギュラー化が適当であるとプログラム委員会が判断したセッションがあります。レギュラー化を希望されるセッションについては、2003 年大会でも過去の実績を基にプログラム委員会でご検討させていただきます。また、新規参加の学会に対しては、レギュラーセッションをご提案頂く、もしくは合同大会への参加実績を重ねた上でレギュラー化をご検討いただくなどの対応を考えております。

#### Sセッション

旬の研究テーマを学会横断的に議論するセッションとして、これまで同様に一般から公募します。

#### Uセッション

全学会に関係する話題を取り上げるセッションです。2002 年大会では、運営機構提案セッションの他に、公募を行い、3セッションをそれぞれ 1 日行いました。2003 年大会も同じ方針を考えておりますので、皆様の積極的な応募をお待ちしております。

#### [3] 2003 年大会プログラム編成スケジュール(案)

2003 年大会のプログラム編成日程案を以下に示します。

- 8月 プログラム委員会再編  
Rセッション決定(レギュラー化を希望されたセッションの検討を含む)
- 9月1日～ Uセッション公募開始
- 9月中旬～ Sセッション公募開始
- 9月末 Uセッション採択
- 10月末 Sセッション公募締切
- 11月末 Sセッション採択
- 1月10日 投稿受付開始
- 2月7日 早期締切
- 2月14日 投稿締切
- 2月15日～ セッション日程、プログラム編成
- 3月10日 投稿者へ日程時間割通知
- 3月10日～ プログラム最終調整
- 3月21日 プログラム編成終了
- 5月18～22日 2003年大会

2003年大会の期間は前回大会と比べて1週間早いで、プログラム編成終了も1週間早くしてあります。また、編成期間は前回大会と比べて1週間長く取り、余裕を持たせました。これに伴い、投稿締切は2週間前設定されております。また、会場の都合により、大会開催期間を4日とし、ポスター講演を1日2交代にすることを検討しております。

上記のセッション区分案、プログラム編成スケジュール案などはプログラム委員会で検討し、決定していく予定です。その結果につきましては、プログラム委員および運営機構のウェブサイトを通して、皆様にお知らせいたします。来年の大会に向けて、どうぞよろしくお願い致します。

### [3] IUGG2003年総会の成功に向けて参加支援を

IUGG組織委員会事務局 末広 深  
(海洋科学技術センター)



#### <はじめに>

みなさま、IUGG(International Union of Geodesy and Geophysics: 国際測地学・地球物理学連合)総会の第23回目、21世紀最初の総会がアジアで初めて札幌市で開催されます(来年2003年の6月30日～7月11日の2週間)。猛暑を避けて過ごしやすい札幌で「この惑星(ほし)の今～未来への挑戦」(State of the Planet: Frontiers and Challenges; 大会統一テーマ)を世界中の研究者と論じあいましょう。歓迎式典は、新しく完成される札幌コンベンションセンターで7月2日夕刻とりおこないます。

いま、開催準備がどこまで進められているかご存じですか? まず、

それをご報告します。そして、これからはみなさま一人一人が総会のホストになっていただきたいのです。なぜ?と思われる方もいると思いますが、それにお答えします。

#### <準備状況>

これまでの経緯、プログラムの内容については、ウェブサイト(<http://www.jamstec.go.jp/jamstec-e/iugg/index.html>) か (<http://www.iugg.org>)から飛ぶ)に記されていますので、ぜひご覧ください。ここでは、重要なポイントをお知らせします。まず、6月に閣議決定を受け、日本学術会議と関連16学会との共同主催が決まりました。セッション内容は世界中からの提案により、国際プログラム委員会(西田篤弘委員長)によって確定され、登録、アブストラクトを受けつけ始めていることを、ご存じでしたか? 合同大会に参加されているみなさんは慣れていると思いますが、ステップ1として ID 番号(ID number)をまず、取得していただきます。そして、ステップ2で、登録、アブストラクトの投稿をしてください。このような情報はセカンドサーキュラーに記されておりますが、ウェブサイトアクセスすれば、すぐに実際にステップを進められます。

#### <IUGG 総会と日本の関わり>

IUGGは1919年に創立という伝統を誇りますが、強調すべきことはもっとも広く世界中の研究者を集める大会であると言うことでしょう。地球を構成する国々は様々です。そのいろいろな国々(80カ国以上)からの参加がある、つまり、われわれの住環境でもある地球および他の惑星について考える研究者の集まりとして、最もふさわしいではありませんか? これこそ、最先端の研究成果を持ち寄りシェアしあう場であるべきです。とくに今回は統一テーマを中心に構成7協会のセッションがたくさん用意されました。

日本は、科学の先進国と言ってよいでしょう。しかし、私たちの生み出す成果は、もっとも世界への貢献として認められてよいはずだと感じておられる方も多いでしょう。われわれのホームで開催されるこの大会はまさにそれを実現させる絶好の機会です。ぜひプログラムをよく検討してください。必ず、みなさまの成果の発表にふさわしいセッションが見つかるでしょう。日本から約100名の研究者がコンピーナーになっていることも心強いことです。

統一テーマのユニオンセッションは、6テーマあります(予測・予知およびその可能性、火山性島弧の揮発性物質:沈み込めスラブから成層圏まで、地球システムと地球変動、地球物理的災害と人口過密都市の持続力、地球内部の構造とダイナミクス、地球を測る新しいセンサー:何が可能か)。いずれも学際的・多面的にテーマを考えるセッションです。また、ユニオンレクチャーには、松野太郎氏、M. Molira氏(ノーベル賞受賞者)、G. Glatzmaier氏、C. Reigber氏が統一テーマに沿って行います。

若手の研究者による地球惑星科学の未来を論じるユニオンセッションもあります。中谷・孫野セッション、萩原シンポジウムと日本の科学

者の業績に敬意を払ったセッションもあります。全体は、ユニオンが8、複数協会合同によるものが59、各協会によるものが115という構成です。プログラムのタイトル、内容を読んでいただければわかりますが、グローバルな問題意識を前面に出し、知恵を絞って、問題解決に向かおうとするセッションがほとんどです。これは、今後さらに伸ばしていくべき IUGG の 特色と言えるのではないのでしょうか？ IUGG も広い世界からたくさんの研究者を引きつける魅力が必要です。今回の札幌総会で魅力増といきたいものです。

現在、ホスト日本としては、日本学術会議と関連16学会の共同主催の体制で進むことが、これまでの広い議論で決まりました。議論はそれぞれの学会で進行しますので、なかなか全体をつかみにくいかもしれませんが、現実にはオール日本で進んでいます。代表の組織委員会は、上田誠也委員長、上出洋介副委員長をはじめ各学会、日本学術会議各研究連絡委員会から推薦を受けて委員が選出されています。みなさまの学会のどなたが組織委員あるいは部会で活躍しているのかぜひ知って、積極的にアドバイス、ご協力などお願いします。各部会の活動はたいへんに重要です。これからますます活動度が上がっていかねばなりません、極力無駄を排し、しかし、一体感を高めて協力していきましょう。

北海道に在住の研究者の方々には、特段のご協力、アドバイスをお願いします。アジア、アフリカ、アメリカ、オセアニア、ヨーロッパからの研究者にぜひ北海道はじめ、日本の自然を見ていただき、交流を深めて将来の研究構想をあたためる機会です。組織委員会では、展示会場において日本の研究機関の活動内容の紹介をプロモートしています。これも国外の研究者、研究機関との交流の芽となるはずです。さらに、この機会を捉えて、札幌市民をはじめ、小学生から一般の方々への啓蒙活動(アウトリーチ)も積極的に推進しようとしており、積極的参加を呼びかけます。

#### <資金計画>

予算計画については、登録料で約60%、残りは、国、自治体などからの補助金、そして寄付金を収入源として、会場費、若手・途上国研究者補助、広報、人件費、その他に充てます。募金委員会は高木章雄委員長以下35名の方々に委員として活動していただいています。国内の経済状況はご承知の通りで困難ですが、みなさまのお口添えがいただけると幸いです。もちろん、参加すること(5000人以上が目標です)が、成功の第一の鍵です。また、参加できない方でも、支援のために寄付を額にかかわらずいただければ成功へ導くこととなります。すなわちスポンサーとしての参加です。それぞれの学会で窓口となる募金担当者がいますので、ご連絡ください。寄付は下記に示します。

#### <おわりに>

この総会の成功へ向けて、広くみなさまの参加を呼びかけます。合同大会を支えている各学会には、主催学会の他にも多くの関連学会

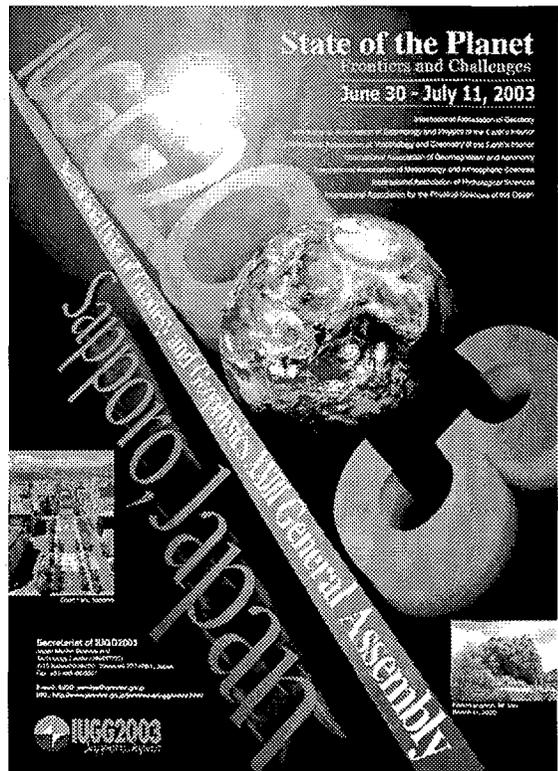
がありますが、ぜひ協賛をお願いします。個人のみなさまには、周りの方に声をかけてください。そして、組織委員会、各部会委員あるいは学会の担当委員に積極的にアプローチして、IUGG の 成功、さらなる発展をもたらしてください。この種の学会はほかにはないのです。

#### 重要な日付

IUGG2003ID 取得	受付中
アブストラクト受付締切	2003年1月20日(月)郵便 2003年1月30日(月)インターネット
参加補助金申請締切	2003年1月30日(月)
総会開始	2003年6月30日(月)
歓迎式典	2003年7月2日(水)
総会終了	2003年7月11日(金)

#### 寄付について

IUGG 総会の運営資金として使われます。特定公益増進法人(課税優遇措置が受けられる)である国際観光振興会(INTO:大きな国際コンベンションなどを担当)が受付を行っています。寄付金は交付金として主催者に支払われます(INTO 管理費2%余)。連絡は、各学会 IUGG 募金担当者までお願いします。



[4]第13回ゴールドシュミット国際会議(Goldschmidt 2003)  
日本開催のお知らせ(その2)

——特別セッションテーマの募集——

会議名: 第13回ゴールドシュミット国際会議(Goldschmidt 2003)

開催時期: 2003年9月7日(日)~12日(金)

開催場所: ぐらしき作陽大学(倉敷市)

主催: The Geochemical Society (国際地球化学会)

The European Association of Geochemistry

(欧州地球化学連合)

The Mineralogical Society of America (米国鉱物学会)

日本地球化学会

後援: (独立行政法人)産業技術総合研究所

(学校法人)ぐらしき作陽大学

学協会後援: 20学協会(名称略)

会議の規模: 参加者約800名、発表論文数約650件(口頭およびポスター)、特別講演、企業展示、バンケット、エクスカージョン

現在 First Circular を配布中で、ホームページ(<http://www.ics-inc.co.jp/gold2003/>)でも最新情報を掲載しています。このいずれかで氏名と連絡先を登録していただくと、今後の情報をe-mailでお送りいたします。

ゴールドシュミット国際会議は、一般セッションと特別セッションから構成されますが、現在特別セッションのテーマとコンピーナを募集しています。特別セッションは、ひろく地球化学・宇宙化学に関わる分野から、up-to-date な課題を取り上げて討論するもので、およそ40テーマを想定しています。研究プロジェクトのまとまった成果発表などもこれに含まれます。特別セッションの企画をお持ちの方は、以下の項目について、2002年10月31日までに、国際プログラム委員会委員または国内プログラム委員会委員にご提案ください。ご提案に際して、所属学会の制限はありません。プログラム委員会委員の名称は、上記の First Circular とホームページに掲載されています。また、プログラム委員会の松田准一委員長(Jun-ichi Matsuda, Osaka University, )に直接ご連絡いただいてもけっこうです。ご参考までに、今年8月にスイスのダヴォスで開催される第12回ゴールドシュミット国際会議の特別セッションテーマは、<http://www.goldschmidt-conference.com/2002/gold2002/>をご覧ください。

- (1)特別セッションの表題
- (2)セッションの目的と内容の概要(英文で約120ワード)
- (3)座長(2名)
- (4)基調講演者(複数可、30分講演)
- (5)招待講演者(複数可、一般講演と同じく15分講演)
- (6)口頭発表とポスター発表のおよその割合

(7)必要なセッションの単位数(セッション1単位は、半日10講演)

今後の主なスケジュール

2002年10月31日 特別セッション提案の締め切り

2003年1月 Second Circularの発行(website)、論文募集・事前登録開始

5月 講演申込および Abstracts の締め切り

9月7~12日 第13回 Goldschmidt Conference (倉敷)

Website: <http://www.ics-inc.co.jp/gold2003/>

E-mail :

(第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会委員長 松久幸敬)

(連絡先)

第13回ゴールドシュミット国際会議組織委員会事務局

〒305-8567 つくば市東1-1-1 中央第7

産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門 富樫茂子 気付

Tel: 0298-61-3590, Fax: 0298-61-3748

E-mail:

地球惑星科学関連学会連絡会ニュース 第25号

2002年8月6日発行

発行: 地球惑星科学関連学会連絡会  
連絡会幹事会会長 清水 洋

編集: 地球惑星科学関連学会連絡会  
連絡会幹事会ニュースレター担当 青木元